

幸手市立さかえ小学校 学力保障グランドデザイン

幸手市の到達指針

【全国学調】

- 平均正答率

【埼玉県学調】

- 学習方略・非認知能力の平均値
- 学力が伸びた児童生徒の割合

本校の学力の現状と考察

現状	考察
<p>①全国学調（平均正答率） 全国の平均は超えているが、算数に課題が見られる。</p> <p>②埼玉県学調 ・学習方略・非認知能力 県平均越え項目が多い ・学力の伸び 小6の国語が県平均と同等であったが、小6算数・小5国語・小5算数は県平均を上回った。</p> <p>③幸手市統一学力調査 学年によって、平均を上回った学年と下回った学年と二極化が見られた。</p> <p>問題を最後まで解けず、無回答で終わった児童が見られた。</p>	<p>算数については、校内事情により、少人数指導を実施できず、苦手としている児童へのきめ細かいアプローチが出来なかったことが要因と考えられる。</p> <p>埼玉県学力学習状況調査については、各学年で身につけるべき学力の定着が見られる。ICT活用を日常的に行っているため、CBT化への対応がスムーズに行われたことも県以上の結果の要因と考えられる。</p> <p>統一学力調査については、学年によって傾向がはっきりとしている。各学年の人数は少ないが、個別対応が必要な児童が多いため、引き続ききめ細かい対応について全校で検討し、取り組んでいく。</p>

ICTの善き使い手を育て、活用促進と学力向上とを図ってまいります

学校全体での取組



一人一台端末の積極的な活用

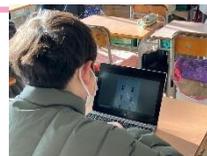
- 変化の激しい社会を生き抜く児童を育成するために、授業中はもちろん、全ての教育活動において積極的に活用を進める。
【教育リーディングDXスクール指定校としての役割】
- 学力向上とICT活用の相関関係を立証する。
【学力向上にICT活用は欠かせない事実】

基礎学力の定着

- 毎週月・火曜日の業前活動【コツコツタイム】
基礎学力の定着を図るための週30分の積み重ね
“小さな積み重ねが大きな力となる”

読書習慣の定着

落ち着いた学級づくり



一人一人の居場所づくり

- 各学年少人数の学級経営のよさを活かし、一人一人を大切に居場所づくり
- 一人一人の存在が輝く教室掲示の工夫

ICTを活用した児童理解

- Microsoft「Teams」を活用して、各学級のチャネルを活用して、教員と児童との双方向のやりとりを行う。
(教員の連絡後のリアクション、児童からの返信、児童が作成したファイルデータ共有等)
- 児童の心の健康観察「こころウォッチ」を活用して、児童の心の悩みを把握する。
(学校生活の充実には、まず心身の健康から)
- ☆「こころウォッチ」の活用について、外部講師を招聘して、効果的な分析方法を教授してもらう。

学びを深める授業づくり



ICT活用の授業スタイルの確立

- 一人一台端末の活用については、授業における以下の場面での活用を重点的に行う。
- 自分の考えをまとめる
【思考力・判断力・表現力の育成】
- 友達のと比較して、自分の考えを深める
【相互のやりとり】
- 授業の振り返りを入力する
【学びの足跡】
- ☆思考ツールを活用し、短時間で思考を深めたり、お互いの考えを共有したりする

令和の幸手スタンダード授業V

- 導入から終末までを見通した授業の実践
【全教職員が共通歩調で授業を実施】

学校間連携・家庭連携



幸手中学校区の連携の充実

- 幸手中学校区【幸手中・幸手小・さくら小・さかえ小】の連携を密にして、ICT活用・道徳の実践の充実を図る。
- 中学校区の教育相談連絡会や、地域学校保健委員会の場を活用して、児童生徒の健やかな成長について、教職員・保護者・地域・行政・外部講師等が協議していく。

家庭学習の充実

- 家庭学習の取組について、年度初めの懇談会で共通理解を図り、実施していく。
- ICTを使った教材や、紙媒体のドリルなどを利用して、繰り返しの学習を大切にして、定着を図っていく。